

トータルエネルギー コスト40%削減可能

建物の断熱・耐久性がアップ

山崎建設 透湿外断熱システム導入

山崎建設(株) (福山市霞町3-12-23、山崎安育社長、資本金2250万円、電084・923・3456、<http://www.yamasaki-kensetsu.co.jp/>)

は、建物の断熱・耐久性がアップするということから、建築業界で注目されている「透湿外断熱システム」「シートソーラーモックラシック」を中四国地区で初めて導入し、第1号物件として「久松ハイツ」(同市木之庄町)のリニューアル工事に同システムを採用した。

同システムはドイツのシート社が開発、山崎建設は代理店となって施工を開始した。外壁に湿気を通す「ビーズ発泡ポリスチレン断熱材」を張り、被覆材を塗って補強メッシュシートを埋め込み、外気に影響されにくい特殊塗料で仕上げる。

断熱材の厚さは70mm―120mmで、「魔法瓶のような働きをする」(山崎社長)ため、暖冷房費を含めた建物の「トータルエネルギーコスト」は約40%削減できるといふ。山

崎社長は「50畳にエアコンが1台あれば空調は十分で、欄間を付ければ部屋と廊下などを一定の温度で保て、高齢者にも優しい住空間が実現できる」と強調した。

仕上げる塗料が80種類

また、同システムはコンクリート部分を外気に触れないようにカバーするため、老朽化を防ぎ、建物の寿命を延ばすという。さらに、同システムの特長は仕上げとなる特殊塗料が800種類もあることだ。「ヨーロッパのメーカーだけあって色が豊富で上品な色ばかり。施主の方が望まれる配色が可能」(山崎社長)。

同社は同システムを建物のリニューアルだけでなく、新築分野でも活用させたい意向。コストは20―30%アップするだけという。